



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案 第10巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。都市の生活構造、生活構造の概念。
Issue Date	1953
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77386
Type	manuscript
File Information	N019_01S28.pdf





NEW STANDARD
NOTEBOOK

都市社会学

二十八年版

特殊満載集

第十卷

都市の生活構造

生活構造の概観

生活構造の概観

一、近來の流行語としての生活構造

その不正確、不一致、不平等。

一、余の提唱する生活構造の意味

その概念的理論のあらは存続。

一、生活構造と社会構造の混同

才九章都市の生活構造

序説 生活構造の概念

近頃生活構造といふ語が頻りに用ゐ

られる。けれどもその意味するところは

明瞭に明確な根據ありのたゞなく一

レと見解とされるところである。以

て概念を泛用するの必要を認めし

むと理論的根據もない様に見える。

特に生活構造と社会構造を混

用する場合が多い様である。

然るに社会構造の外に生活構造

の概念を泛用するの必要を認め

るのは、社会構造のたゞによるは

社会構造は静態的構造に
 同するよりあり、
 動態的現象に同するよりあり。

社会生活の理解は、
 社会生活の理解による。

本来社会構造は村落及び都市
 即ち社会生活の現象に適用さ

れるものであつて、その他の社会的統一性
 には完全な形で適用されねばならぬ。

社会生活の現象に適用する
 概念は、社会生活の現象に適用する

二つの概念は、社会生活の現象に適用する
 分析に適用して、社会生活の現象に適用する

社会生活の分析には、社会生活の現象に適用する

① 我々にはこの様な生活構
造の模範を必要とする。こ
れは先づ社会構造との区別
を明かにする必要がある。

有用性を示す。

② 人は社会構造とは次の様に理解
して居る。

「社会構造」とは、社会集団や

（定形化した）^{模範の形と相違あり} 社会（個性や社会

的統一が一つの後天的な統一作

を形成して居る場合、かくの如き

要素の^{社会的}に分解し

分析する場合には、その一組の社会

的要素の組合せを社会構造と云ふので

ある。

流儀の社会集団や定形化したもの

社会関係や、社会的統一が複合し
て、この社会の統一を形成す

る。これは、高橋社会において、高橋
高橋社会の統一を形成す

る。社会的統一は、右の如く、高橋社会

的部分に分断して分析するに、あ

る。これは、高橋社会の全体の社会

的統一を、高橋社会の統一を、高橋社会

の統一を、高橋社会の統一を、高橋社会

の統一を、高橋社会の統一を、高橋社会

の統一を、高橋社会の統一を、高橋社会

の統一を、高橋社会の統一を、高橋社会

口と足なり。此^等の社会的要素の
組合せの全体、即ち具体的^{社会的}の現
一と足なり。是は昭々^とに社会的^の如
を構成して居る。
分析には甚く有用である。この概念は
其の複合に最も適用されること
を以て理由は、他の複合的要素は
その複合の形、その要素の組合に比
すれば比較にならぬ程単純である
から、中々すしと此を構成し、故に
によつてその分析も、その要素
が、甚くしく複雑である。要素

※都市の住民の生活を一つの全体として
 巨視的に観察した場合、そこには認め
 られる時々の周期性と地域的な
 秩序とがこゝで意味される。
 こゝでは生活現象はゆるい社会の
 内的過程の集積として社会現象と
 なるのである。是れを社会周期
 性と呼ぶ。都市は社会的な
 現象が可能なものである。
 生活構造と秩序は、この主要な
 な都市社会現象のあり方
 域である。

社会の秩序には二れなくしては
 分析を迫らねばならぬ。つ
 社会構造の概念も、今日尚ほ
 如く整理せず、甚だ皮層を
 足跡を存し、そのは遺感である。
 次に生活構造と秩序は、
 現象としてある。但し、
 「生活構造」とは、
 生活現象の中に、
 秩序と空間的・地域的秩序との
 特性である。#
 東京銀座の夜の人口は二千人である。

★ 一定の地域内の人が一定の目的のために
その地域に一定の時刻に固く集
ることをいふ。これは、
これより

U

か、書の上の人口は二十万である。それは東京の生活構造をいふ。生活の型をとって片のである。★
一夜にして銀座が無くなるといふならば、例へば大火によって消え失せたとしたならば、東京の生活構造は急変しなければならぬ。けれども東京の社会構造はそのために寸毫も変へないであらう。
世帯と職域をその二つの集団が都市の社会構造の基礎であるといふ。吾人の考へは、空想

※ 高橋次郎の

社会構造は社会的要求の組成

を明らかにするものである。社会生活様

式は高橋次郎の生命存続の

ために必要とする周期反復の

形態を明らかにするものである。

である。

国家と周郡的律動が安定した

生活の秩序や安定した生活秩序

系に基き、都市の生活秩序

に基き、国家と周郡的律動の秩序

に基き、国家と周郡的律動の秩序

に基き、国家と周郡的律動の秩序

下の社会構造について述べたものである。

社会構造は安定したものである。

これは高橋次郎の生命存続の

ために必要とする周期反復の

形態を明らかにするものである。

国家と周郡的律動が安定した

生活の秩序や安定した生活秩序

系に基き、都市の生活秩序

に基き、国家と周郡的律動の秩序

に基き、国家と周郡的律動の秩序

に基き、国家と周郡的律動の秩序

に基き、国家と周郡的律動の秩序

に基き、国家と周郡的律動の秩序

と居るか、生活の物質的構造に同じくは
それと同じくして研究は殆ど有しない。
故に物質生活の物質的秩序と云ふこと
が何を意味するかについて、求めておく必要
がある。

余は嘗て物質的研究を試みれば、
物質的秩序が如何に東洋の如く
中世の生活と支配して居るかを知った
ことあるが、當時余はそれを「近世」と
余計に思ひなかつた。今都市の生活と
考察して之をやや古く見ると「近世」
の如き物質的秩序に因る同じ

従来の社会学も時々の變遷の現象に
 対応して變化の過程には同じくその
 ところから時々の變遷の現象に
 対応して變化の過程には同じくその
 ところから時々の變遷の現象に
 対応して變化の過程には同じくその

不存して居る。半時々の變遷の
 現象に對應して社會の變遷はな
 らず、今では時々の變遷の現象に
 社會学的研究における、特に東洋
 的社會の變遷研究においては、強と弱
 に變遷するこの主要な一面である
 足るべきも、平面的な構図の保持
 には、秩序のみな従来の社會学
 に於ける同じであつたが、時々の
 變遷に於ける構図の變遷の
 現象に對して、同じく重要な
 あると云へる。

④ 我々は、時々の變遷の現象に
 対応して社會の變遷はな

